

年間第2 1 主日の説教

金 大烈 神父 2011年8月21日(日)

《弱さは恵み ～自分の中の弱さを認めて、活かしましょう～》

今日は、聖書をとおして皆様が既によく知っていらっしゃることに、もう一度振り返るつもりでお話したいと思います。

使徒パウロについては、たくさんの有名な話があります。その中の一つに、「誇る必要があるなら、わたしの弱さにかかわる事柄を誇りましょう。」(IIコリント 11・30)という言葉があります。覚えていますよね。この言葉はどういう意味でしょうか。なぜパウロは「自分の弱さを誇りと考えます。」という告白ができたのでしょうか。この言葉は、彼の生涯の中で得られた一番大きい宝物ではないかと思います。

結論から申し上げます。自分の弱さを認めて受け入れることができれば、私たちは神様の御心に留まることができます。そして、弱さが恵みとなるのです。

イエス様が、今日の福音(マタイ 16・13 - 20)と同じ質問を私たちになさったと考えてみましょう。私たち一人一人に「あなたは私を何者だと思うの?」と聞かれたら、その質問に正しく答えるためには、イエス様の御心に留まるしかありません。そして、イエス様の御心に留まるためには「留まりたい」という強い望みと、自分の弱さを認めることが必要です。

そのような意味で、今日は準備した言葉があります。

「神様の御心に留まることができれば、あなたの弱さは一つの素晴らしい恵みに変わります。」

本当です。神様の御心に留まることが出来る時、あなたの弱さは素晴らしい恵みに変わるのです。使徒パウロが自分の弱さを誇りとして考えられたのは、こういう意味です。「ああ、弱さは本当に恵みだ。」という悟りがあったから、彼は「私は自分の弱さを誇ります。」と叫んだのです。

ですから、皆様の中にあるいろいろな弱い点にがっかりしないでください。それを活かしてください。そうすれば、神様の本当の姿に出会えます。

この言葉を心に刻みましょう。

ありがとうございました。